ピアノ音楽コース

〈次ページのパターン②のいずれかを選択して受験〉

※ピアノ実技を主とした「パターン①」とピアノ実技（2曲）と小論文及び面接の、「パターン②」を選択できます。

【パターン①】

	試験科目	内　容	注　記	AO	給費生	公募推薦	一般前期	一般後期
1	主科実技課題	A．以下の⑴～⑶のすべてを演奏する ⑴ バッハ J.S.Bach : Das wohltemperierte Klavier（平均律クラヴィーア曲集）第1巻および第2巻の中から任意の1曲。フーガのみ。 ⑵ エチュード 以下の(a)～(g)のいずれかの曲集の中から、任意の1曲。 (a) C.Czerny : Die Kunst der Fingerfertigkeit, Op.740（699）ツェルニー：50番練習曲） (b) J.B.Cramer / Bülow : 60 Ausgewählte Etüden（クラーマー＝ビューロー：60の練習曲） (c) M.Clementi : Gradus ad Parnassum, Op.44（クレメンティ：グラドゥス・アド・パルナッスム） (d) M.Moszkowski : 15 Etudes de virtuosité, Op.72（モシュコフスキ：15の超絶技巧練習曲） (e) I.Moscheles : 24 Studien, Op.70（モシェレス：24の練習曲集） (f) F. Chopin : 12 Etudes, Op.10（ショパン：12の練習曲集） (g) F. Chopin : 12 Etudes, Op.25（ショパン：12の練習曲集） ⑶ ソナタ J.Haydn、W.A.Mozart、L.v.Beethovenのソナタから1曲を選び、任意の楽章1つを演奏する。	※⑴は暗譜とする。 ※⑵⑶は繰り返しなしで暗譜とする。 ※⑴⑵⑶の順で演奏すること。	◎	◎	◎	◎	
		B．次の⑴と⑵の両方を演奏する ⑴ 以下のⓐまたはⓑのいずれかを選択 (a) J. S. Bachの鍵盤独奏作品 (b) 任意のエチュード作品 ⑵ 自由曲　1曲	※⑴⑵は繰り返しなしで暗譜とする。 ※⑴⑵の順で演奏すること。					◎
2	楽　典	筆記試験（60分）		◎	◎	◎	◎	◎
3	ソルフェージュ課題	A．以下の⑴および⑵の両方を受験する ⑴ 聴音 旋律聴音2題、および和声聴音1題（上三声密集四声体） ⑵ 以下のⓐまたはⓑのいずれかを選択 (a) F.Wüllner : Chorübungen der Münchener Musikschule（コールユーブンゲン第1巻）No.33～59（原書番号）の中から1曲を当日指定 (b) 新曲視唱	※聴音および新曲視唱の実施方法と例題は●ページを参照。唱法は固定ド、移動ドいずれでもよい。	◎	◎	◎	◎	
		B．以下のⓐ～ⓒのいずれか1つを選択する (a) 旋律聴音2題、および和声聴音1題（上三声密集四声体） (b) F.Wüllner : Chorübungen der Münchener Musikschule（コールユーブンゲン第1巻）No.33～59（原書番号）の中から1曲を当日指定 (c) 新曲視唱						◎
4	AO面接			◎				
5	給費生作文	指定する作曲家のうち一人を選んでその伝記を読み、試験当日に課題作文を書く。（60分） 詳細は●ページに記載。	※伝記は単行本に限り、辞書・辞典類の項目は認めない。当日参照不可。		◎			
6	給費生面接				◎			
7	一般科目	A．本学で行う以下の一般科目ⓐ～ⓒの中から1科目を選択して受験（45分） (a) 英語（Ⅰ・Ⅱ）　(b) 国語（国語総合、国語表現Ⅰ、ただし古文・漢文を除く）　(c) 数学Ⅰ					◎	
		B．大学入試センター試験の成績を利用する 以下の(a)～(f)の中から2教科2科目を選択 (a) 国語　(b) 地理歴史　(c) 公民　(d) 数学 (e) 理科　(f) 外国語	※「国語」「地歴」「公民」「数学」「理科」「外国語」について3教科・3科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用。判定の際、各科目毎100点満点に換算。合否判定に使用できる科目の詳細については38ページを参照。					◎

作曲コース
デジタルミュージックコース
指揮コース
サウンドプロデュースコース
ピアノ演奏家コース
ピアノ指導者コース
ピアノ音楽コース
オルガンコース
電子オルガンコース
弦管打楽器コース
ジャズコース
ポピュラー音楽コース
声楽コース
アートマネジメントコース
舞台スタッフコース
音楽療法コース
ミュージカルコース
バレエコース